

教師を目指す4年生の皆さん

春期の教育実習も終了し、実習生にとっては、全力を尽くした充実感と児童・生徒と楽しく過ごした忘れられない思い出、そして数々の学びと反省が頭の中いっぱい満たされていることでしょう。しかし、思い出に浸る間もなく教員採用選考試験が始まります。

これまでに積み上げてきた力を発揮して採用に向けて頑張ってください。

さて、3年生の皆さん

いよいよ皆さんの出番です。まだまだと思っていた試験は、あと一年先に迫ってきました。今、どんな思いでこの時期を過ごしていますか。

- ①筆答試験対策を少しずつやり始めている。
- ②思いは強くあるが、何をすればよいかわからない。
- ③まだまだ具体的に考えられない。

「グローバル化や情報化、少子高齢化など社会の急激な変化に伴い、諸課題への対応と求められる人材育成の変化への対応が必要」（中教審）とされるなか、あなたは、どんな教師を目指しますか。採用選考試験は、確かに教師になるためのハードルですが、試験内容の対策をするだけでは「よい教師」にはなれません。自分自身をしっかり見つめて、学ぶことを通して粘り強く自らの「人間性」を築き上げていく必要があるのです。そのためには、多くの時間がかかります。人の話に耳を傾け、資料を読み、行動し（表現し）、また考えて自己を高めてください。教師を目指して自己実現を図ってください。

一年前のこの時期に、仲間と共にスタートしてみませんか？

目標を定め、計画的に着実に準備・行動していくことが大事です。うまく進まないこともあるでしょうが、あせる必要はないのです。着実に一步一步と進むことです。困った時には、教職支援センターのアドバイザーを訪ねてください。できる限りの支援をします。

皆さんの教師への夢の実現のために教職支援センターでは、以下のような「セミナー」や「説明会」を始めます。『ゼヒトモ』教師になるために、『ゼヒトモ』参加してください。

- 1 夏の面接セミナー 全2回（要事前申し込み）
 - 1回目 8月2日（水） 16:20～17:20 講義形式
 - ① 教員採用選考試験について
 - ② 面接試験の目的と形式
 - 2回目 9月13日（水） 10:00～12:00 グループ学習
 - 面接試験の経験（個別面接・集団面接）
- 2 志願書記入説明会 各1回（4地区別一申し込み不要）
 - ①志願書の役割
 - ② 自己PR記入の方法他
 - ・9月14日（木）14:20～15:30 京都市・その他
 - ・9月15日（金）14:20～15:30 京都府・堺市・豊能地区・その他
 - ・9月19日（火）14:20～15:30 大阪府・大阪市・その他
 - ・9月20日（水）14:20～15:30 滋賀県・その他

「子どもをみる目，社会をみる目」

大谷大学 文学部 教育・心理学科 教授 岩淵 信明



3泊4日の長期宿泊学習に学生ボランティアとして参加した学生が「子どもはかわいいなあ。」と言っているのを耳にします。「楽しいことばかりだったの。」と聞かけると、「大変なこともあるけど、やっぱりかわいいわ。」と言っています。ボランティアを受け入れた学校の先生方に活動の様子を尋ねると、「細かいところによく気がつくし、子どもの様子をよく見てよく動いていましたよ」と、なかなかいい評価をいただきます。「子ども一人一人を大切にすると」言うが、それはどうすることなのでしょうか。ベテランの教員であってもその場その場で子どもにどうかかわればよいのか、いつも適切な判断や行動ができるわけではありません。家庭や学校を離れた子どもがどんな動きをするのか、なぜそのようなことになるのかその背景をみていくことが必要です。そして、指導者同士は常に協力し合うことが大切です。宿泊学習などのボランティア活動には、こうしたことを学ぶ場が多くあります。

この3月には、学習指導要領が改訂されました。「社会に開かれた教育課程」を柱にして、「主体的、対話的で深い学び」などが重視されています。

教育実習生の参観に小学校を訪問した時に、校長先生から「うちの教員としてそのままいてほしいぐらいの人材です。」とほめていただいたことがあります。ほめていただくポイントは、明るく前向きで誰ともしっかりと話ができる。その場その場でどうしたらよいかよく考え、常に問題意識を持って行動できる。子ども一人一人をよく見ている。などです。

校長先生から「指導要領が改訂されましたけど、大事な項目を表面的で浅い理解でしか受け取れない人がいます。社会に開かれた教育課程などは先生自身が社会を視野に入れて、保護者や地域の方々と関わって初めてできることです。自分が人の言うことにしっかり耳を傾けられないのに、主体的、対話的で深い学びなどは無理ですね。」となかなか厳しいご意見をお聞きすることがあります。教員を目指す人は、学校ボランティアに行く中で、大切な意味を具体的な活動の中で幅広く学んでほしいものです。

今回の学習指導要領改訂のポイントに、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成。その際、子どもたちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視、と示されています。

子どもの姿をしっかり見つめ、社会の変化に対応する力を、社会・地域と共有・連携しながら育成していくこと。そのため、学校ボランティアの活動などを行う中で子どもを中心に据えながら、教職員、保護者、地域に広く目を向けて問題意識を持って取り組んでいく「社会に開かれた努力」が必要なのです。

ゼヒトモ教師をめざせ！

『先生になるぞー』



教・心学科 3年 山本 尋也

私の小学6年生時代は、とにかく楽しくて充実していました。担任の先生の話は面白く、児童にやる気を起こさせたり、学級を一つにまとめたりすることが、とても上手でした。私は、「こんな先生と一緒にずっと勉強したい」と思っていました。この頃から私は、教師になりたいと考えるようになりました。

今、大学での学習や学校ボランティアでの経験から、教師を目指す思いは、大きくなるばかりです。児童のやる気を引き出し、信頼される教師を目指します。

教・心学科 3年 新谷 恵史

私は、小学校時代の恩師への憧れから、小学校教師を目指すようになりました。児童から信頼・尊敬される明るくて情熱を持った先生でした。学校ボランティアで子どもと関わり、教師への思いはより強くなりました。

私は、目指します。

○明るくて愛情あふれる教師になる。

○教師自身が学ぶ意欲を持ち続け、子どもと信頼関係を築いていく。

○児童が「もっと知りたい。学びたい。」と思う授業をする。

教・心学科 3年 横田 脩光

私は、学校ボランティアを通してたくさんのことを学びました。担任の先生は、子どもの個性を大切にしながら学級づくりをされていました。子どもたちも、友だちの困りを見て温かい声掛けをしていました。授業でも積極的に学習する子どもたちでした。こんな子どもたちが増えれば、社会も明るくなると思います。

人にやさしく、夢を持った子どもたちを育てるために、「ゼヒトモ」先生になりたいです。

歴史学科 3年 辰澤 直樹

教採で、私が力を入れて取り組もうと考えている試験は、面接試験です。私は、受験希望地の教師養成講座の入塾試験を目指しました。そこには面接試験があり、何度か練習したうえで本番を迎えました。実際の面接は、思いもかけない質問があったり、答えられない内容を聞かれたりと、苦しい思いを持ちました。

この経験で実感したことがあります。教師を志すうえで大事にしたいことは、自分の経験や体験を増やしていくことです。そうすることが、面接試験にも対応できる力を身に付けられると思います。今後も多くの経験を重ねていきたいです。

教・心学科 3年 足立 夕桂

私は、高校2年生のときに教師という職業を意識し始めました。今、大学での学びと学校ボランティアを通して教師への思いは、高まるばかりです。

私には、モットーとしている言葉があります。「笑顔満開 咲かせてみよう みんなの花を」私は、子どもの可能性を引き出すことのできる教師になります。挑戦できる環境をつくり、たくさんの「できた！」を子どもに感じてほしいです。そして、一人一人が輝く学級をつくりたい。子どもと真摯に向き合い、時には厳しく、時には笑い、泣き、学び、共に成長していく日が来るのを楽しみにしています。

文学科 3年 大谷 奈々

私は、子どもたちの能力を伸ばし、未来を広げられる教師を目指します。小さな成長を大切に、褒めることによって自信を持たせます。苦手なことにも少しずつ取り組ませ、努力を褒めながら楽しさを見つけられるように教えます。

私は子どもたちと共に悩み、励まし合いながら成長していけるような教師になりたいと強く思います。



教・心学科 3年 田中 泉稀

私は、子どもたちの一人一人の話を聞いて、正しい行動ができる先生になりたいです。

私が小学校5年生の頃に、女子の仲間から外れそうになったことがありました。担任の先生は、私の思いも他の女子の思いもしっかり聞いて仲直りをさせてくださいました。私は、そんな先生になりたいと思いました。

今、私は、学校ボランティアなどで、様々な年齢の子どもたちと勉強したり、遊んだりして関わっています。先生になるまでに子どもたちが「何が言いたいのか」を行動から読み取って、正しい指導のできる先生になりたいです。

一次試験終了後の4年生の声

○去年の秋(11月)から勉強を始めた。これでは時間が足りないと感じた。

○一日に5～6時間はほぼ毎日勉強してきた。でも毎日不安でいっぱいであった。

○教師塾には絶対参加した方がよいと感じている。

○いい加減な学習をして、やっているつもりだったが、模擬試験で学力がないと知った。

○教採の学習は、3年生の9月から始めた。それでも遅かったと感じている。

○学校ボランティアには、参加してよかったと思う。面接で大変役に立った。

教・心学科 3年 羽根田 翼

「小学校の先生になる。」と私が思うようになったのは、母の影響です。母は、小学校の教師をしています。夜遅くに帰り、それから次の日の授業の準備をします。すると、やがて子どもたちの話をしだします。「今日、こんなことがあったよ」「大変やったなー」と。しかし、どこか楽しそうに話しています。愚痴っぽく言っているのに、「嫌ではないのかな？」と不思議でした。母にしか解らない、良いことがあるのだろうか。学校でしか見えない面白いものがあるのだろうか。そのうちに、「お母さんは、子どもが大好きなんだなー」と、私に伝わってくるのでした。

そんなことから、不思議で面白い学校の世界をこの目で見たいと思うようになりました。「ゼヒトモ」先生になりたいと思いました。